ホチキスを外して、教室に掲示してください!

仕事がわかる業界図鑑 vol.12 農林水産業界

後継者不足は業界共通の悩み。若手人材の就業が求められる!

農業、漁業、林業。いずれも、親の跡を継ぐか、地元で仕事を探すことをイメージする高校生が多いかもしれない。しかし、農林水産業界は今、後継者不足。インターネットでの人材募集なども行われている。そんな農林水産業界の仕事を紹介!

取材・文／渋谷勉(職種Pick Up)　撮影／徳田貴久　イラスト／藤井昌子

漁業

漁業の中でも沿岸漁業は家族経営の漁師が多く、後継者不足は深刻な問題。都会に暮らす高校生は「漁師になる!」なんて考えたこともないかもしれないが、全国漁業就業者確保育成センターや自治体、各地の漁協などで漁業研修生や新規就業者を募集しており、やる気さえあればチャンスは十分ある。

沿岸漁業

海岸に近い海で日帰りで行う漁業。主な漁法は定置網、巻き網、底びき網、一本釣り、刺し網、養殖、採貝・採藻など。地域によって獲れる魚介類や漁法はさまざまで、いくつかの漁法を組み合わせる。個人経営で、従業員も家族中心の場合が多い。

漁協の承認が必要

漁師

仕事はハード。実績を積めば将来は独立の道も

漁師になるには、まずは個人経営の沿岸漁業者や漁業会社に従業員として就職する。揺れる船の上での重労働なので、仕事はハードだ。沿岸漁業なら独立も可能だが、実績を積んで地元漁協の組合員になること、さらに船を購入する資金（数百万円）が必要なので、道のりは長い。また船舶免許や漁業無線の免許なども必要となる。

漁業協同組合

個人経営中心の漁師をまとめるのが地元の漁業協同組合(漁協)。漁師が獲った魚介類は漁協が買い取り、市場や加工業者に出荷する。また、漁業は許認可制の仕事なので、独立するには漁協の承認が必須。組合員になるには地元漁村に住むことも必要となる。

沖合・遠洋漁業

日本近海の沖合で行う大中型巻き網漁や沖合底びき網漁などが沖合漁業。数日から2週間かけて漁をする。船は30トン～140トン程度。太平洋やインド洋など世界の海でマグロやカツオなどを獲るのが遠洋漁業で、長ければ1年以上かかる。遠洋カツオ船は400～500トン。

大型漁船船長

まずは漁業会社や水産会社で乗組員として経験を積む。甲板員なら航海士、機関員なら機関士の資格を取得し、経験を積んで、三級海技士の資格を取ると、船長または機関長になるチャンスも!水産高校や水産・海洋系の大学を卒業していると資格取得の面などで有利。

大型船を所有

漁業会社・水産会社

大型漁船を使う沖合漁業、遠洋漁業は船を所有する漁業会社や水産会社が行う。乗組員として働くにはこれらの会社に就職する。

林業

スギやヒノキなどの森林の育成や管理、樹木の伐採、木材の生産を行うのが林業。近年は、林業従事者の減少、高齢化傾向に歯止めがかからず、若年層の就業が望まれている。また、環境保護の観点から、森林設計や管理に携わる技術者・研究者などへのニーズも上昇。レクリエーション指導をする森林インストラクター、樹木医などの仕事も注目されている。

森林組合・林業会社等

林業従事者が所属するのは全国各地の森林組合や林業会社など。林業は個人での新規参入は難しいのでまずこのいずれかに就職する。都道府県単位の森林組合連合会や大手林業会社では、環境保護の観点からの森林整備にも取り組んでいる。

林業従事者

木材の伐採や間伐、造林や森林の管理などを行う

森林で、チェーンソーなどを使った木の伐採や間伐、さらに造林や森林の管理などを行う仕事。就職の窓口となるのは各都道府県の林業労働力確保支援センターなど。公的な講習会や研修事業なども行われている。技術者・研究者を目指すなら、大学の森林系学科で学ぶと有利だ。

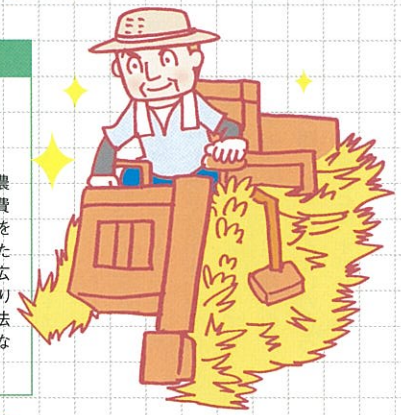
農業

今、日本の農業は転換期。貿易自由化の波で、従来の国による農業保護政策に頼った経営では立ちゆかなくなってきた。また、農家の大半が高齢者で跡継ぎがいないといった問題も出てきている。そんな時代だからこそ、ビジネス感覚や独自性のある農業経営ができる「若い人材」へのニーズは高い。自治体などによる新規就農支援なども充実してきている。

稲作農家

有機農法で味にこだわった米作りをする農家が増加

日本の農家といえばやはり稲作農家。ただし、最近は国内の米の消費量が減少傾向にあり、苦しい経営を強いられている農家も多い。そのため、野菜など他の生産物にも手を広げたり、安全と味にこだわった米作りをする農家も増えている。有機農法で生産したお米などをインターネットなどで直販することもできる。



花卉（かき）農家

栽培にはこまめなケアと高い技術が求められる

バラ、チューリップ、ひまわり、ユリ、サボテンなど観賞用の花を生産する農家。ビニールハウスなどによる施設栽培が多い。花卉は水やりなどこまめなケアや高度な栽培技術が必要とされ、難易度が高く、米などのような大規模な栽培もできない。だからこそやりがいもあり、小規模農家でも技術で差をつけることができる。

酪農家

酪農ヘルパーとして就農する道がある

乳牛を育て、その乳を絞って牛乳を生産する農家。朝夕2回の乳搾りや、乳牛の給餌、厩舎の清掃や搾った牛乳の管理などを行う。酪農の場合、ゼロから農場を始めるのはかなり難しいが、「酪農ヘルパー」と呼ばれる制度があり、酪農未経験からでも農協や酪農ヘルパー利用組合の職員として各地の農場で仕事に就ける。畜産にはほかに養鶏や養豚も。

■農林水産業の業種・職種ガイド

農家や漁師、林業従事者など、何となく仕事のイメージはつくが、詳しいことやなり方まではわからない……という高校生のための業種・職種ガイド。自然の中で働きたい人は要チェック!

野菜農家

有機野菜へのニーズは高く個人農家でもチャンスあり

野菜は、いろいろな作物を少しずつ作ることができ、露地栽培にビニールハウスなどの施設栽培も組み合わせれば年間を通して出荷することも可能。初期投資も酪農や果樹に比べると安く抑えられるので、新規就農者にとってはリスクが少ない。有機野菜へのニーズも高まっているので、個人経営でもチャンスは十分ある。

果樹農家

高級果物ブームで収益を伸ばしている農家も

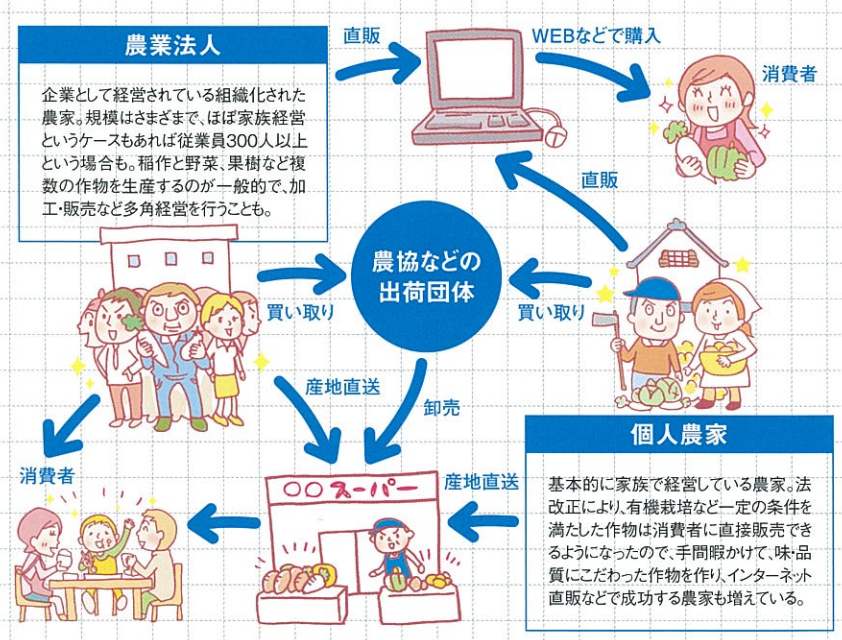
りんご、なし、ぶどう、桃、柿、みかん、さくらんぼなどの果物を生産する農家。最近は宮崎県のマンゴーが有名になったように、高級果物の需要が伸びている。人気のある作物を味にこだわって生産することで、安定した収益を上げている果樹農家も多い。初期投資がかかるので、新規就農のハードルはやや高め。

農家の経営形態と流通の仕組み

農家の経営形態には農業法人と個人農家とがある。農業に就くには農業法人に就職する道もある。また、自治体や新規就農相談センターなどによる就農援助も充実しているため、農業大学などで学んだり、研修やインターンシップで基本的な知識・技術を習得していれば、最初から個人農家でスタートすることも十分可能だ。

農業法人

企業として経営されている組織化された農家。規模はさまざまで、ほぼ家族経営というケースもあれば従業員300人以上という場合も。稲作と野菜、果樹など複数の作物を生産するのが一般的で、加工・販売など多角経営を行うことも。



個人農家

基本的に家族で経営している農家。法改正により、有機栽培など一定の条件を満たした作物は消費者に直接販売できるようになったので、手間暇かけて、味・品質にこだわった作物を作り、インターネット直販などで成功する農家も増えている。